

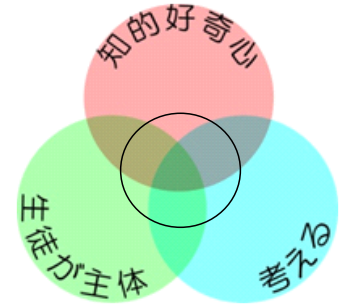
【授業プラン】

仙台第三高等学校 第1学年 理数科「SS課題研究基礎」授業プラン
授業者 教諭 田中恵太・清原 和

1. 日時：平成29年5月25日（木）5, 6校時（13:20～15:10）
2. 対象：1年 1, 2組 理数科クラス 40名×2クラス
3. 場所：生物実験室
4. 単元名：気づき力育成プログラム～生物・物理分野～

5. 教科で設定した今年度指導目標

- ・中学校までの知識、生徒自身の経験に基づく「気づき」により進める。生徒の思考を誘導するための発問を適時投げかけ、生徒の思考を積み重ねていくことで、課題設定能力の育成を目指す。
- ・試行錯誤を踏まえた授業を通じて、「課題発見、仮説設定、解決方略構築、試行錯誤と協働による課題解決」「自律的なPDCAサイクルの設定などの体験」「創造性の育成」を目指す。



6. 本時で解決しようとする課題

三観点のどこに焦点をあてるのか

○印で明示する！

- ・身近に存在している「ツクシ」というものに、既存の知識に照らし合わせながら、様々な角度から視点を変えて観察することで、「気づき」を生み出し、潜んでいる課題を発見するスキル、その課題を解決するための仮説設定のスキルを養う。

7. 本時のポイント(課題解決に向けて本時で工夫した点)

- (1) 様々な成長段階のスキナ（ツクシ）を段階的に提示していくことで、生徒の「気づき」を促していく。
- (2) 与えられたテーマから課題を発見、解決するためのフローを、構成的なアクティブラーニングの手法で追体験する。その体験を通して、生徒は主体的に自ら考え、知識を深めながら「科学する力」の一部を身に着けていくことができる仕組みになっている。

8. 予想される生徒の変容（こんな場面でこうなって欲しい……）

（授業中・授業後にこんな様子がみられたら……）

- ・理数科特有の理数分野への特異的な集中力により、既存の知識や観察対象を比較することから、「あっ！」というたくさんの「気づき」が共有され、そこから「気づき」の連鎖が生まれることが望まれる。
- ・たくさん動き回って、どんどん周囲の情報を仕入れながら知識と気づきの共有が行われることが望まれる。